

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

--2024年1月9日・第106号--

<目次>

●教育委員会との東京高等裁判所での闘いがいよいよ始まります

■市民の力で、子どもたちと先生を守ろう

▲お知らせコーナー

☆1/20 講演会「軍拡から〈新しい戦前〉が始まっている」

☆1/21 ゆめシネマ「ガザ 素顔の日常」

☆1/27 講演会～気候危機と平和の危機「海の中から地球が見える」

★編集後記

●教育委員会との東京高等裁判所での闘いがいよいよ始まります

<川崎市教委の控訴理由が明らかに>

横浜地裁で「音声データの不開示処分は条例違反で違法」と断罪されながら、不当にも控訴した市教委との東京高裁での闘いですが、昨年末に市教委の「控訴理由書」が送達されてきました。

市教委は控訴理由書で地裁での自らの主張を上書きし、ひたすら「音声データを公開されると、委員が音声データを悪用されることに不安を感じるおそれがあり、忌憚のない意見を述べることを差し控えるおそれがある」と、具体性のない「おそれ」を相変わらず繰り返しています。

そして、そのおそれを立証するためとして裁判所に証人申請を行いました。

<市教委が申請した証人にあきれる>

教科用図書選定審議会の委員からの証言として元総合教育センター所長を、そして教育委員会議での「忌憚のない意見が言えなくなるおそれ」の証人は、なんと現職の教育委員(大学教授)です。

総合教育センターの所長(指導主事や現場の校長、教育委員会事務局の部長職も経験)は当たり前ですが公務員、教育委員は市長が議会の同意を得て任命した任期4年の特別職公務員です。

個人的には公的な立場にある人物が、「会議の録音が公開されることを気にするあまり、発言することに不安を感じるので意見が言いにくくなるおそれがある」などと、よくも言えたものだと思います。

高裁は両名からの陳述書を見て証人として採用するか否かを決定しますが、弁護団は控訴答弁書の中で「証人不用」と主張します。

<情報公開理念を問う裁判の争点隠しがねらい>

委員個人の不安感情を前面に出し、本裁判で問われている「公開が原則」の情報公開の理念から裁判官の目を逸らそうとする争点隠しがそのねらいとも思えますが、地裁に比べ市民の思いに対しより冷たい対応を取ることが多く見られる高等裁判所での闘いですので、油断できません。

原告・弁護団として高裁でも「完全勝訴」を勝ち取るため全力で闘いますので、傍聴参加や心苦しいお願いですが裁判費用のカンパなど、ご支援よろしく願いいたします。

なお、東京高裁での第1回口頭弁論期日は以下の通りです。

3月6日(水)東京高等裁判所424号法廷 13時30分開廷

傍聴のご協力よろしく申し上げます

情報公開制度を活かす川崎市民の会 畑山 裕

■市民の力で、子どもたちと先生を守ろう

ゆきとどいた教育をすすめる会は、昨年9月から2つの署名活動を進めています。

一つは、川崎市に対し「教職員の欠員・未配置の解消で子どもたちが安心して学べる学校に」を求める請願署名です。

2つ目は、「教職員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育を実現するための全国署名」です。

署名用紙はこちら

<深刻度がさらに進む川崎市の教員不足>

川崎市の学校では、2022年の学年末に137名もの先生が不足。今年度2023年の4月は、60名の先生が不足のままスタートし、12月には2倍以上の122.5名が不足する危機的状況です。

産休・育休、病気休職のかわりの教員が配置されず、学級担任でない他の教員や少人数学級指導担当などの加配の教員、校長など管理職が入って、必死に学校を支えています。

教員不足で多忙化が更に進んで、よりいっそう長時間・過密労働になり、「心の病」で休職する教員が増えています。

そのため、さらに教員が不足になる悪循環がおきています。

また、教員不足でより深刻なのは、20代から30代の若い先生の退職が定年退職の先生の数より断然多いことです。

希望を持って先生を目指し、採用試験に合格した若い先生たちが学校を去っていくのは、川崎の教育にとって大きな損失です。

<子どもたちの学ぶ権利が保障されない>

教員不足で一番の被害者は子どもたちです。

学習を教え、成長発達に寄り添い励ます先生がいなくては、子どもたちの学ぶ権利が保障されません。

今、子どもたちはさまざまなシグナルを出しています。

昨年10月、川崎市は「令和4年度川崎市立小中学校における児童生徒の問題行動・不登校の調査結果」を発表しました。

それによると、

①暴力行為の発生は、前年度より小学校45件増の239件、中学校50件増の197件

②いじめの認知件数は、前年度より小学校108件増の4,614件、中学校43件増の318件

③長期欠席は、小学校1,770人、そのうち不登校は前年度より197人増の1,144人、中学校2,012人、そのうち不登校は前年度より166人増の1,672人

という結果が報告されました。

子どもたちを取り巻く環境も変化し、多様な子どもたち、外国にルーツを持つ子、特別なニーズを持つ子など支援が必要な子が増えています。

教員にゆとりがなくては子どもの声は聞こえて来ないし、先生に声をかけることが出来ません。

子どもたちは成長発達する権利があります。

それには発達段階にふさわしい教育が保障されなければなりません。

教員の権利が大切にされなければ、子どもの権利を大切にすることは出来ないと思います。

<市民の力で、子どもたちと先生たちを守ろう！>

教員不足と、先生たちの劣悪な働き方は限界を超えています。

ゆきとどいた教育をすすめる会は、川崎市にこの非常事態を一刻も早く、責任をもって対処し是正し解消することを求め、3月末まで継続して署名を集めています。

川崎市市議会を動かし、変化をもたらすためには、たくさんの市民の声、署名数が必要です。

署名へのご協力をよろしくお願いします。

ゆきとどいた教育をすすめる会 水野 栄子

▲お知らせコーナー

☆講演会「軍拡から〈新しい戦前〉が始まっている」

講師：山田朗さん(明治大学教授)

1/20(土)18時15分～

多摩市民館：大会議室

資料代：500円

主催：治安維持法国家賠償要求同盟

共催：治安維持法国賠同盟川崎支部

連絡先：044-931-3336・神奈川土建川崎西支部

[詳しくはこちら](#)

☆ゆめシネマ「ガザ 素顔の日常」

1/21(日)①9時 ②12時 ③15時 ④18時

かわさきゆめホール

一般：1,000円 障がい者：500円 学生以下：200円

044-433-3003 ゆめホール

cinama@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

[予告動画はこちら](#)

☆講演会～気候危機と平和の危機

「海の中から地球が見える」

講師：武本匡弘さん(プロダイバー・環境活動家)

1/27(土)14時～

幸市民館第1会議室

会場費・資料代:カンパにて

主催:幸区革新懇、1.27 後援会実行委員会

お問合せ:080-5653-6196・坂内

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

年明けから、地震、航空機事故、柿沢未途容疑者の逮捕と大きな事件が続く中、ナント目白御殿が燃えてしまいました。

目白御殿と言えば、故田中角栄氏の邸宅で、昭和の金権政治の舞台として象徴的な存在。線香の火の不始末ということのようですが、なんともあっけない。

石川県、能登半島を中心とする地震の被害は甚大で胸が痛みます。

すぐにでも駆けつけたい気持ちになりますが、シロウトでは足手まといになるだけ、石川市で支援物資の提供呼びかけがあったのでカイロと携帯トイレを送りました。

これからはモノよりカネのほうが役立つでしょうから、義援金を送ることを考えています。

地震大国の日本に住み続けるなら「明日は我が身」と肝に銘じたい。

[石川県の義援金受付情報](#)

消防団に居た頃、常に感じていたことは、震災対応訓練がおろそかなこと。毎年開催される中原区の操法大会では、小型ポンプ操法と並んで、小隊訓練で行進の美しさを競います。

震災対応訓練をしっかりとやるべきと機会あるたびに訴えていましたが、改善はされませんでした。

関東大震災クラスの地震がもういつ起きてもおかしくない。備えは大丈夫ですか？(Y)

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/6xXBurVEslx3?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下へご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp